3　オウトウの品種別収量性と果実品質

ねらいと成果

オウトウ(サクランボ)は近年、県内各地で主に観光果樹として導入され栽培面積が増えつつある。しかしながら、主産地である山形県と比べ気温が温暖であることから、主産地での品種に対する評価をそのまま当てはめることが難しく、当地域における適応性を調査する必要がある。

そこで、今回は「佐藤錦」、「香夏錦」、「ナポレオン」、「高砂」の収量性や果実品質について検討した。その結果、収量性では「香夏錦」と「ナポレオン」が優れていた。果実品質では「ナポレオン」は着色がやや悪いものの、果重が大きく高糖度であった。したがって、本県北部地域では供試した4品種のうち、「香夏錦」と「ナポレオン」が適していると考えられる。

内　容

1　栽培概要

1992年3月に「香夏錦」、「佐藤錦」、1993年3月に「高砂」、「ナポレオン」を列間5m、株間3mで植栽した。樹形はY字形とした。いずれも台木にはコルトを用いた。1998年には樹冠拡大の遅い「香夏錦」を除く品種で間伐を行い、列間5m、株間6mとした。

2　品種別収量性と果実品質

(1)1樹あたりの収量

品種によって植栽年が異なるので、樹齢10、11年の2か年平均で収量を比較した（表1）。「ナポレオン」が最も多く、次いで「香夏錦」であった。「佐藤錦」は「ナポレオン」と樹冠面積の差があまりないのにもかかわらず、他品種と開花期がずれるため収量は「ナポレオン」のわずか約18%であった。

(2)単位樹冠面積当たりの収量

樹冠面積1m^2当たりの収量は「香夏錦」が最も多く、次いで「ナポレオン」であった。したがって、この2品種は収量性に優れ、兵庫県北部地域に適していると考えられた。一方、「佐藤錦」は4品種中最も低収であり、本県北部地域では不適であると考えられた。

(3)果実品質

樹冠面積当たり収量の多い「香夏錦」は、果実品質の面ではやや劣り、特に果重、糖度が低くなったが、これは着果過多によるものであると考えられた。「ナポレオン」は着色がやや劣ったものの、果重は最も大きく、糖度も「佐藤錦」に次いで高かった（表2）。

今後の方針

「香夏錦」の摘蕾・摘果による高品質果生産や、今回調査した以外の品種についても収量性や果実品質を調査する予定である。

松浦克彦（北部農技・農業部）

表1　Y字形整枝におけるオウトウ4品種の収量性

品　種	1樹当たりの収量	樹冠面積	樹冠面積当たりの収量	10a当たりの推定収量
佐藤錦	4.5kg	33.3m^2	0.14kg/m^2	110.9kg/10a
香夏錦	15.2	19.7	0.89	714.8
ナポレオン	24.8	34.6	0.72	573.1
高　砂	8.6	46.4	0.20	158.5

注)樹齢：10、11年の2か年平均値

表2　オウトウ4品種の果実品質

品　種	果　重 (g)	着色率 (%)	横　径 (mm)	糖　度 (%)
佐藤錦	5.54	72.8	21.5	18.6
香夏錦	4.15	64.0	22.6	16.1
ﾅﾎﾟﾚｵﾝ	7.42	46.8	23.6	17.9
高　砂	5.59	64.6	21.8	17.4

注)2001、2002年の2か年平均値